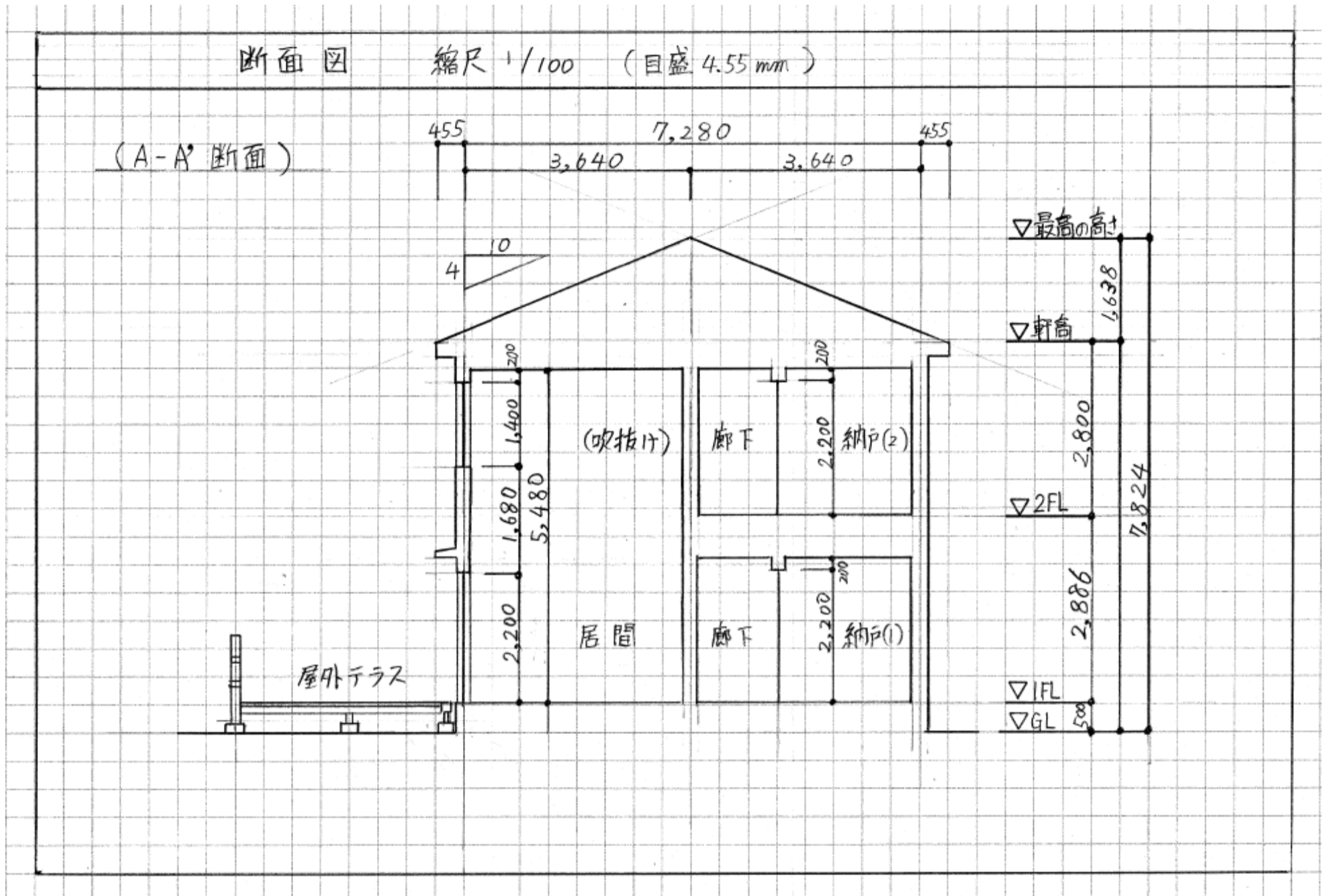


断面図の参考図&解説

・2017年の解説は、2級建築士の解説として初年度であることから、「予測課題の参考図」と「作図手順と解説」について記載する。

断面図の参考図



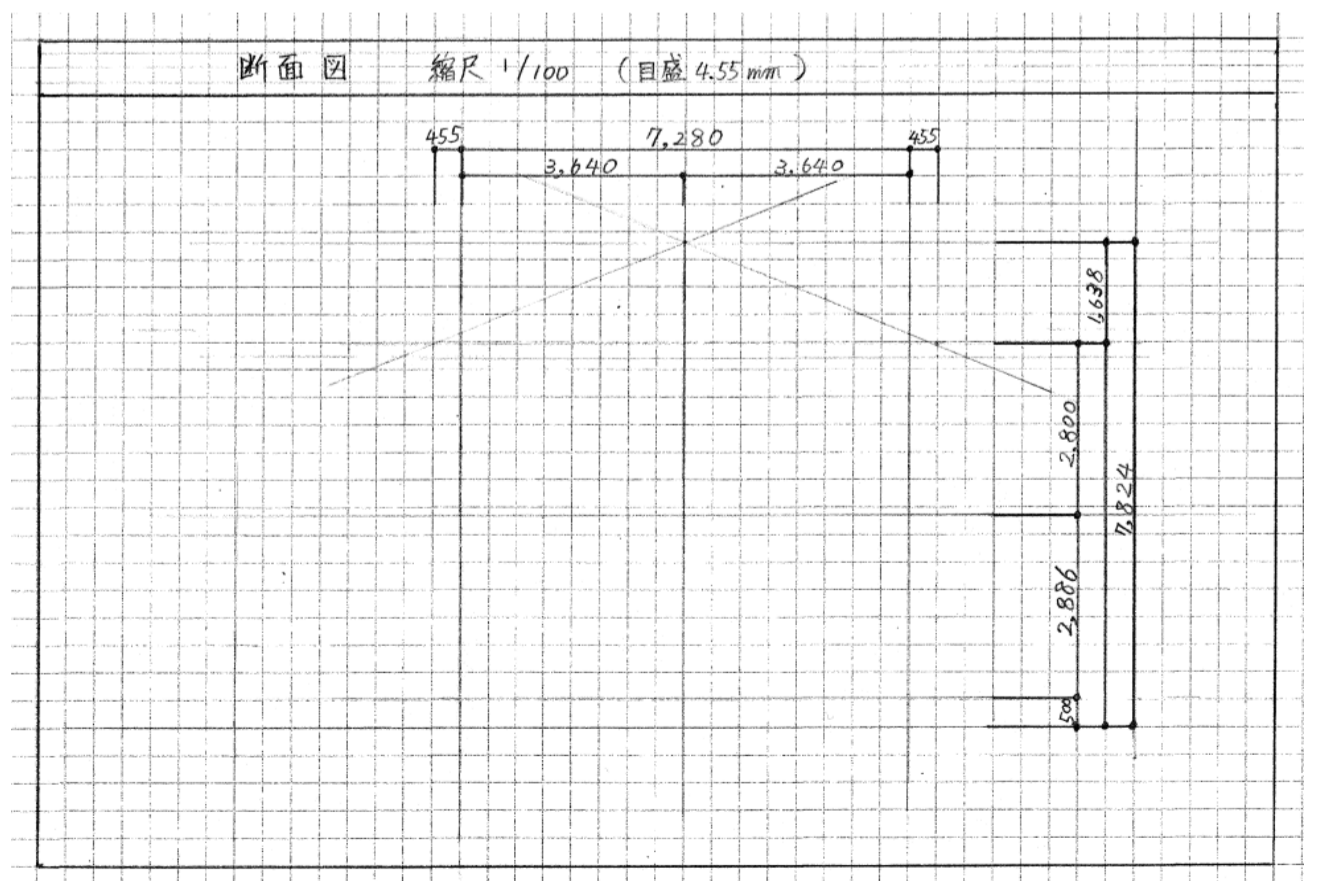
断面図の作図手順と解説

作図の手順(1)

断面図も立面図と同じく、それほど難しくない。
練習次第でかなり早く書けるようになる。

手順(1)は、捨線と寸法線であり、下記手順で作図する。

- ①断面位置の各捨線を書く。
- ②GL、1FL、2FL、軒高さ、最高の高さ寸法数値を書く。
- ③軒の出、最高高さ、外壁の寸法数値を書く。

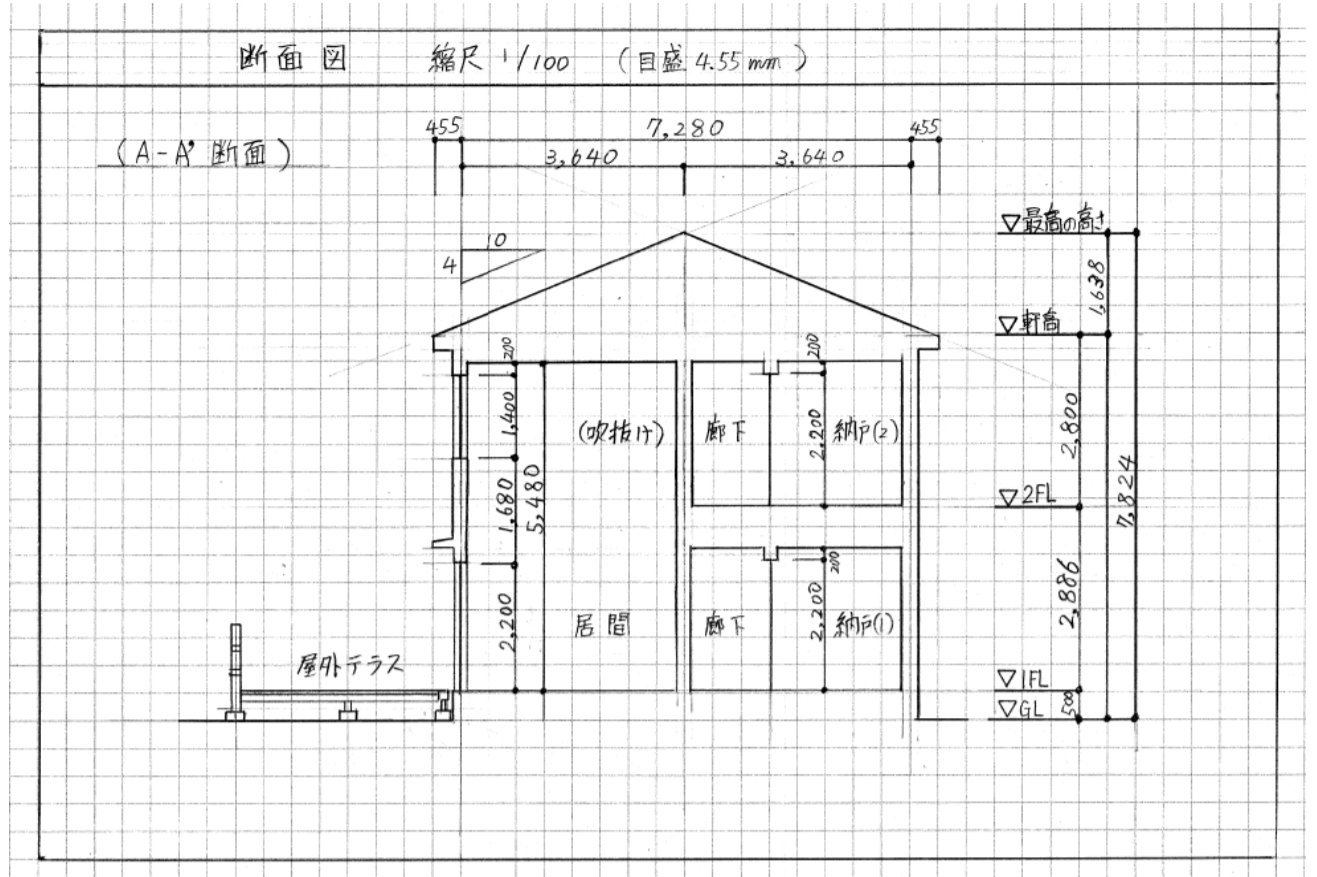


作図の手順(2)

手順(2)では、捨線を参考に、屋根勾配、外壁、内壁、屋外テラスの断面を書き上げ、室名をして断面図を完成させる。

- ①捨線に基づき、屋根勾配、外壁、内壁、窓等断面を書く。
- ②屋根勾配寸法を書く。
- ③屋外テラスを書く。
- ④室内断面図の寸法を書く。
- ⑤GL、1FL、2FL、軒高、最高の高さを書く。
- ⑥室名を書く。

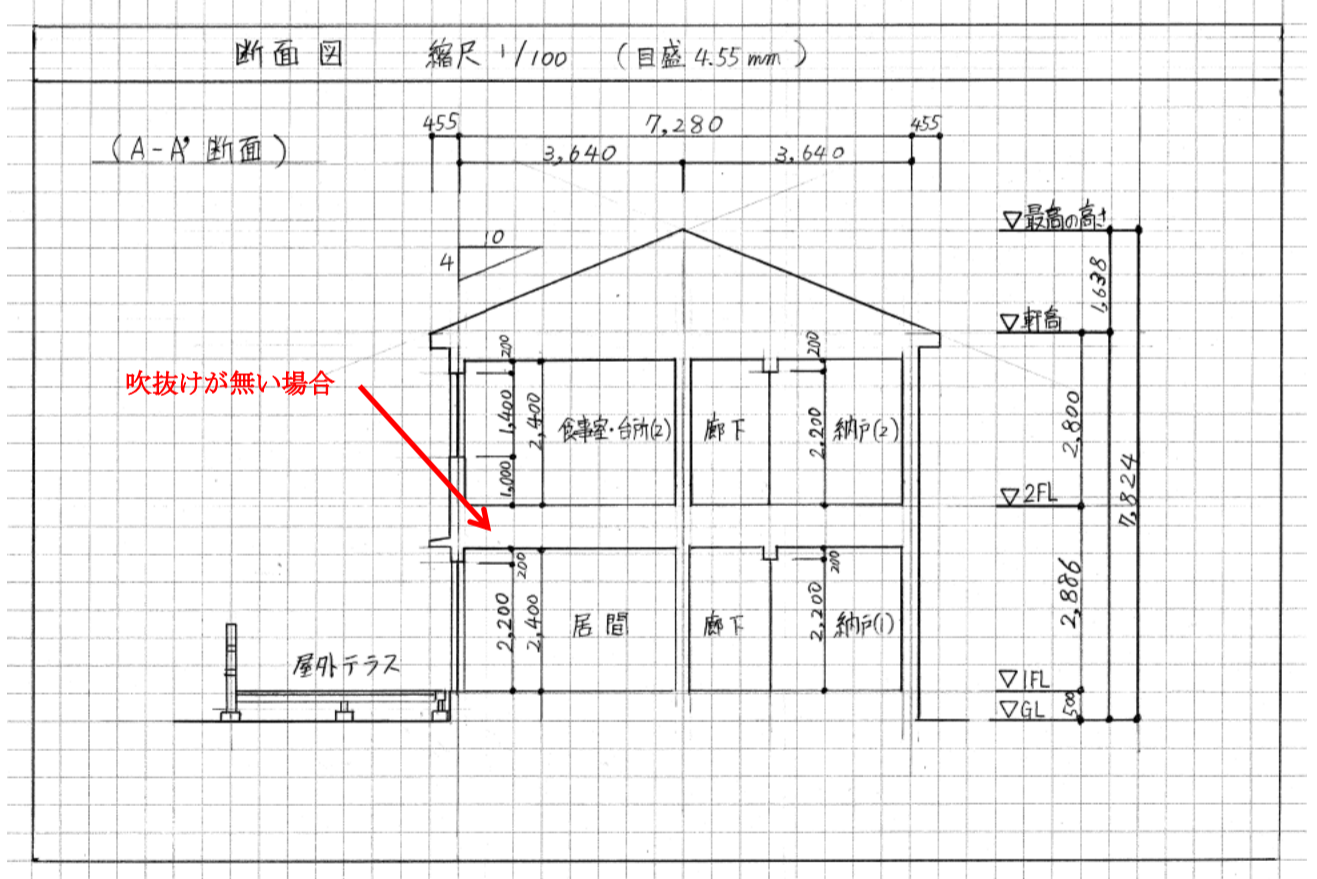
1FLは、GLから約500mmの高さとする。
室内天井高さは、概ね2.4m程度を目安とする。



吹抜けでない場所の断面図(参考)

上記では、吹抜け部分の断面図とした。しかし、吹抜け部分でない箇所を断面とする場合もある。従って、参考まで、吹き抜けとしない場合とした断面図を右に示す。

書き方手順は上記と同じである。



作図の手順(6)

手順(6)では、庇と屋根面を完成させる。

1階窓の上部には庇を書く。この庇は、窓より若干広めで3本線とする。更に、屋根面に横線を入れて立面図が完成となる。

予測課題では、1階に屋根面がないプランとなっている。また、南側立面図となっているので、これ以外のパターンとして、1階屋根がある場合の書き方と、東側立面図の書き方を解説する。

①1階に屋根のある場合の書き方

- ・1階に屋根がある場合を図1を示す。
- ・ここで注意すべき点は、鼻隠し部分が一部内部へ入り込む点である(赤丸部分)。

②東側立面図の書き方

- ・東側立面図で南側立面図と異なるのは、屋根部分である。
- ・鼻隠し部分の書き方が分かれば、それ以外のところは、東側立面図と特に違いはない(赤丸部分)。

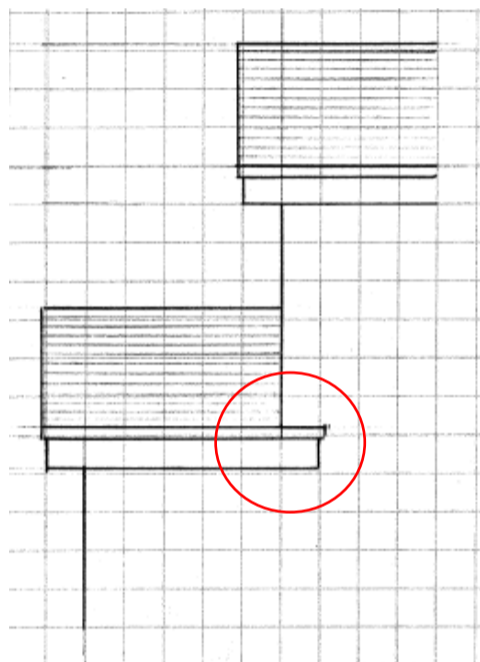
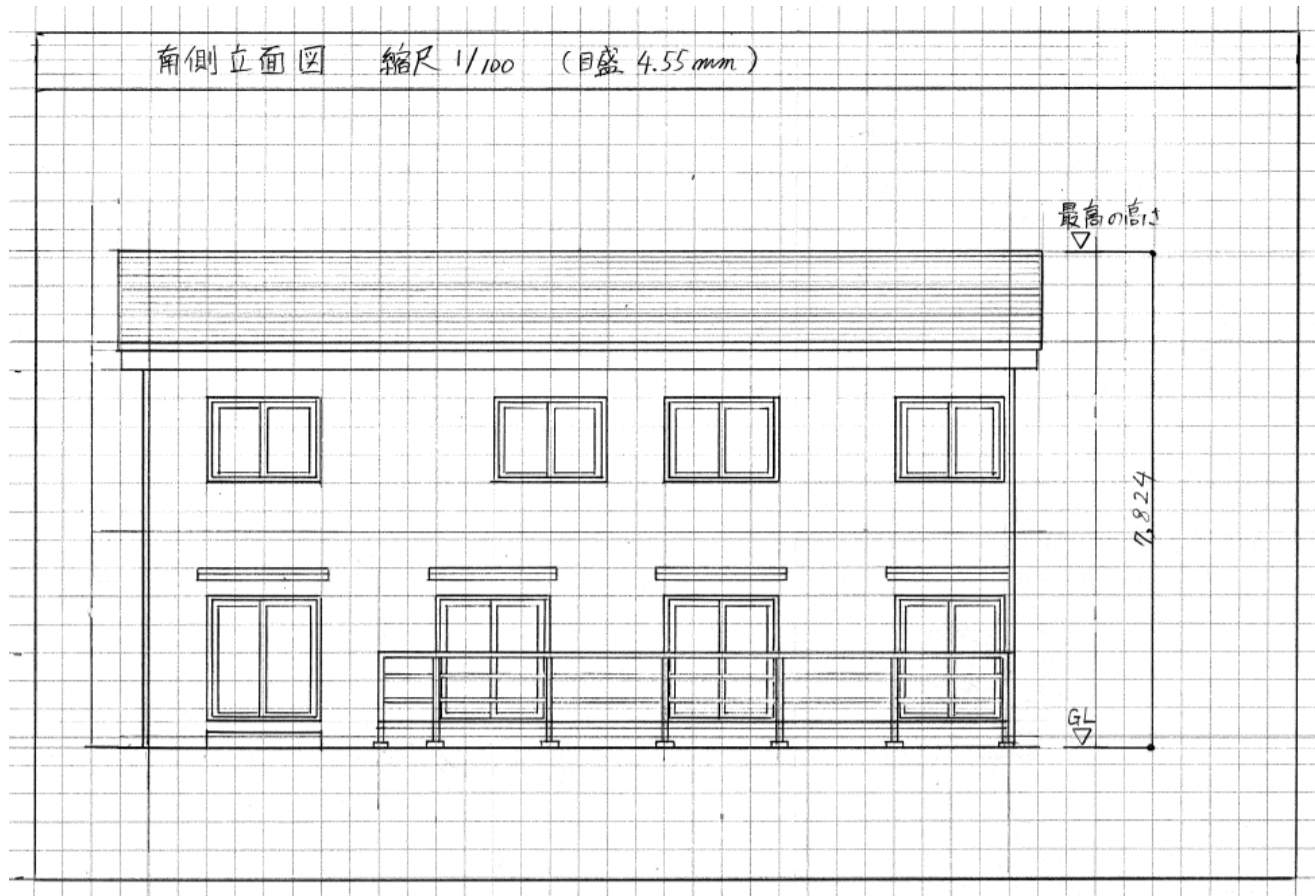


図1 1階に屋根がある場合の立面図

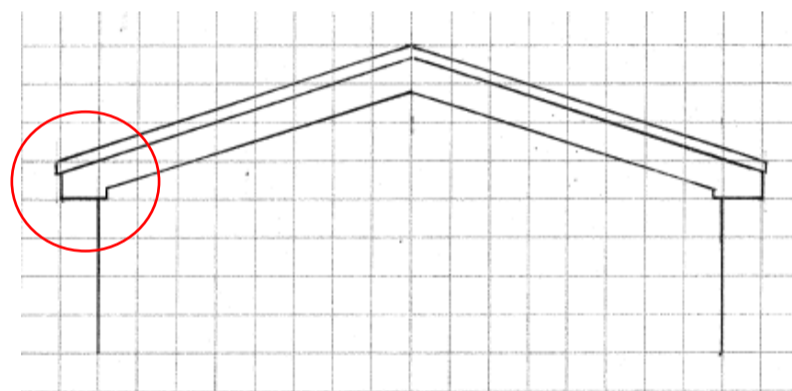


図2 東側立面図